

ID No.	1013
研究課題名	進行口腔扁平上皮癌に対する第三世代がん治療用単純ヘルペスウイルス I 型を用いたウイルス療法の効果の検討
研究代表者	古郷 幹彦 (大阪大学・教授)
研究組織 受入教員 研究分担者	藤堂 具紀 (東京大学医科学研究所・教授) 内橋 俊大 (大阪大学・医員) 須河内 昭成 (大阪大学・医員) 田中 晋 (大阪大学・講師) 栗岡 恭子 (大阪大学・大学院生) 稲生 靖 (東京大学医科学研究所・准教授)
研究報告 Tリンパ球の活性化に必要な共刺激因子の一つであるB7-1を可溶性にしたものを発現する第三世代がん治療用ウイルス (T-B7-1)、およびコントロールウイルスであるT-01を、ヒト舌癌進行過程と類似するDBA/2マウス由来のKLN205-MUC1舌がんモデルにおいて、リンパ節転移巣の増大のみに着目したところ、T-01に比してT-B7-1はリンパ節転移抑制効果を示す傾向があり、複数回投与により有意差を示した。さらにT-B7-1と免疫チェックポイント阻害剤である抗CTLA-4抗体を併用したところ、その効果はより上昇した。このことは、リンパ節転移を高頻度を起こし、患者の予後に大きな影響を与える口腔癌において、極めて有効ながん治療用ウイルスである可能性が示唆された。	